

定例研究会要旨

日時：平成 25 (2013) 年 5 月 22 日 18:00~20:00

会場：東京外国語大学 語学研究所

題目：「ラマホロット語の空間参照枠：「右」も「左」もわからなくなった言語」

発表者：長屋尚典 (東京外国語大学大学院総合国際学研究院講師 / オーストロネシア諸語)

ラマホロット語は、オーストロネシア語族中央マラヨ・ポリネシア語派に属し、インドネシア共和国フローレス島東部とその近隣の島々で話されている。話者人口は言語全体で 200,000 人ほどと推定されるが、本発表で主に扱うレオトビ方言の話者数は約 6,000 人ほどである。Himmelmann (2005) の西オーストロネシア諸語の類型論に従うならば、この言語は典型的な「所有者前置型言語」であり、基本語順が SVO である、(語彙的な)所有者が所有物に先行する、譲渡可能所有と不可能所有の区別が存在する、S/A に関する一致がある、否定辞が文末に来る、などの諸特徴をあわせもっている (Nagaya 2013)。

本発表では、このラマホロット語の空間表現、とりわけ、方向詞を用いたそれについて注目し、フィールド調査によって収集したデータにもとづいて、以下の観察・分析を提示した。第一に、ラマホロット語には方向詞と呼ばれる文法要素があり、それを用いて空間を表現することができる。ここでいう方向詞とは、*rae*「山の方向 (で、に、から)」、*lau*「海の方 (で、に、から)」、*wali*「山でも海でもない方向 (で、に、から)」、*teti*「天の方 (で、に、から)」、*lali*「地の方向 (で、に、から)」の 5 つの形式のことである。これら方向詞は、副詞、前置詞、述語として用いられるだけでなく、名詞化された場合には、指示表現、修飾表現としても用いられる。方向詞は単に空間を表現するだけでなく、この言語の他の文法現象や文化とも強く結びついている。たとえば、この言語の直示移動動詞「来る」や移動経路動詞はどの方向から移動するかによって異なる動詞を用いる。

第二に、方向詞は使用される文脈によって異なる意味をもつ。ラマホロット語の方向詞の意味記述では、大きく分けて、local orientation、global orientation、quasi-cardinal orientation の 3 つの文脈を分けて考える必要があるが、これはどの文脈で用いられるかによって方向詞の表す具体的な意味が異なるからである。具体的には、local orientation と global orientation の違いは表 1 のようにまとめることができる。Quasi-cardinal orientation については後述する。

第三に、ラマホロット語では方向詞を絶対的空間参照枠として用いることができる。空間参照枠とは、隣接関係にない Figure と Ground について Figure の Ground からの方向を指定してやる際の基準となるものであり、固有的、相対的、絶対的の 3 つが区別される (Levinson 1996, 2003)。本発表の重要な観察の一つは、ラマホロット語の方向詞が図 1 にしめすような絶対的空間参照枠をなし、まるで日本語の「東西南北」のように空間表現に用

いられるということである。この特徴自体はインドネシアやオセアニアのオーストロネシア諸語にひろくみられるものである。

最後に、ラマホロット語は相対的空間参照枠をもたない。相対的空間参照枠とは、日本語の「前後左右」のように、観察者を中心とする空間参照の座標を **Ground** に投射して用いるシステムである。重要なことは、この相対的空間参照枠をラマホロット語が持っていないことである。ラマホロット語の「右手」や「左手」を表す語 *wanã* と *mekĩ* はそれぞれマラヨ・ポリネシア祖語の **ka-wanan* 「右、右手」と **ka-wiri* 「左、左手」に遡ることができると考えられる。それに対応する語形は、タガログ語やインドネシア語などの西マラヨ・ポリネシア諸語では相対的空間参照枠に用いられることができるにもかかわらず、ラマホロット語では使用できない。したがって、この言語では「男が木の山側に立っている」とは言っても「男が木の右側に立っている」と言えないのである。

こうして、この発表では、ラマホロット語の空間表現の特徴を、特に方向詞との関係で明らかにするとともに、この言語の空間参照枠に絶対的なそれはあっても相対的なそれはないことを指摘した。

表 1: 方向詞と orientation のタイプ

方向詞	LOCAL ORIENTATION	GLOBAL ORIENTATION
<i>rae</i>	山の方向	Lewotobi 山の方向
<i>lau</i>	海の方	海を隔てた場所の方向
<i>wali</i>	山でも海でもない方向	N/A
<i>teti</i>	天の方向	フローレス島東端の方向
<i>lali</i>	地の方向	フローレス島西端の方向

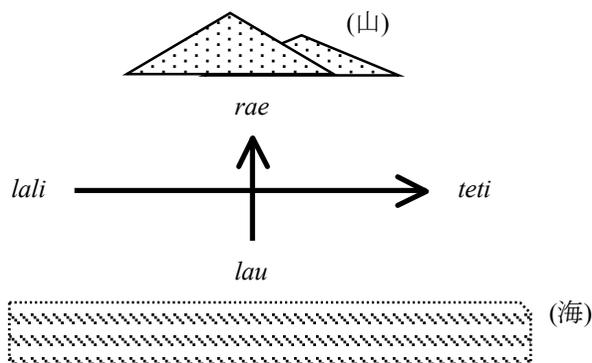


図 1: 方向詞をもちいた絶対的空間参照枠